

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



2013
9

[contents]

P2: クリーン10年目の試練に耐えて思うこと P3-4: 沖縄エイサー初練習 P5: 潮騒JTC 8周年フォーラム告知
P6: 潮騒猿田農場でさつまいも収穫 P7: 「ビッグイシュー」日本語版に潮騒の就労支援事業を掲載
P8-9: 近藤氏インタビュー P10: パソコン教室講師の佐藤浩氏に聞く「パソコンは楽しく覚えるのが一番」
P11: どっこい私も生きてます〜我が回復記〜 P12-13: 受刑者からの手紙 P14-15: しおさい俳壇

クリーン 10 年目の 試練に耐えて思うこと



酷暑の夏が過ぎ、秋の風情が感じられるようになりました。今夏は施設内で予想を超えるトラブルや厄介な問題の処理に追われ、自分の回復が本物かを試される場面が数多くありました。クリーン10年の重みを問う、ハイパーパワーによる試練の夏でした。私は潮騒 JTC をダルクの運営原則にできるだけ忠実でありたいと考えており、大きな括りで依存症であれば過去や立場は一切問わずに、自らが回復に取り組もうとする意志さえあれば基本的に入寮を受け入れています。これは私がダルクで奇跡的に救われたことの恩返しでもあります。

その基本姿勢から潮騒 JTC では入寮条件のハードルを低くしており、実はこれが施設運営を難しくする矛盾に突き当たっています。今や高齢の依存症者が大半を占め、車いす生活を余議なくされた人たちや内臓に重篤な疾患を抱えた人たち、知的障害者の範疇に入るべき人、明らかな発達障害の傾向が見られる人など、ダルクの枠に収まり切らないような人たちが続々と集まってきます。それだけにトラブルも日常茶飯事です。増えつつある刑務所生活やホームレス暮らしが長かった人たちは、集団内の生活がとても苦手で規則とも言えないような施設内の決まりごとを平気で破ります。“刑務所派”は暴力を含む力関係の中でしごきを削る生活により、敵か味方かの二分法的な人間関係を形成しがちです。言葉遣いは丁寧ですが、それは裏社会特有の上下関係で培われたもので、徒党を組みたがり、猜疑心の固まりのようなところも見受けます。一方の“路上生活派”は生来の自由人の気質なのか遵法の精神が弱く、入寮者との何気ない会話に腹を立て、面白くない感情を爆発させて自分を抑え切れなくなります。両派とも屈折した人生で心がすっかり荒れており、回復のプログラムに取り組む前段階で、簡単に施設に見切りを付ける傾向があります。

私はトラブルのたびに深く落ち込み、独り自問自答します。「福祉制度と周囲の手助けで、せっかく手に入れた貴重な“最後の居場所”をいとも簡単に蹴飛ばす心情とは何なのだろう。確かに回復プログラムに取り組めない人たちが増えているが、彼らはどこに行けばいいのか。このままトラブルが続けば、真っ先に回復途上にあるスタッフがつぶれてしまい、施設運営は立ち行かなくなる。私はあまりにも性善説に立ち過ぎるのだろうか…」と。依存症では括りにくい人たちの登場に対して、もはやタマゴが先かニワトリが先かの議論は無意味です。「依存症を隠れ蓑にして生活保護を受け、国の税金を使っていい気なもんだ」との声も耳にします。目の前の現実私の思いや願いを裏切る事態の連続ですが、それでも私は潮騒 JTC を行き場のない人たちの貴重な居場所や終の棲家となるよう頑張っていきたいと考えています。(施設長 栗原 豊)

11月17日 潮騒フォーラムに向けて

沖縄

エイサー

初練習

with 川崎ダルク

11月17日の潮騒 JTC8周年フォーラムを前に、来場者にエイサー（琉球太鼓）を披露しようと、川崎ダルクのメンバーの指導で潮騒入寮者有志メンバーらによるエイサーの練習が、8月30日に鹿嶋市宮中のまちづくり市民センターで始まりました。フォーラムまで2カ月半余りとあって合同練習は数回しかできませんが、有志メンバーらがデイケア施設内でも忙しいスケジュールを調整して練習に励んでいます。



合同練習のスタートとなったこの日は、各地のダルクフォーラムなどで見事なエイサー演舞で定評のある川崎ダルクのメンバーが初めて見本のエイサーを見せて手本を示してくれた後、太鼓のバチ振りの練習、太鼓を実際に持つての練習を経て、課題曲「ミルクムナリ」に合わせての振り付けの練習に取り組みました。初めてエイサーの練習をした仲間たちからは「楽しい」という一方で「体力が要求されるのである程度慣れるまでは厳しい。踊りながら回るのが大変」との声もありました。川崎ダルクのメンバーからは「日にちが経つとやりたくなる。やらないと全然やらなくなる。やっていくと面白くなる」と、継続して取り組むことの重要性が強調されました。潮騒メンバーの指導に当たった、川崎ダルクのナルチョさん(43)は「こういう交流があるのはいいと思う。『教えて覚える』というように、新しいメンバーに教えることで、自分たちもおさらいができる」と述べていました。その上で、練習場所のまちづくり市民センターについて「鏡があるのがいい。自分では足を上げているつもりでも上げていないのが分かる。川崎だと(実際に)音が出せない。ぶっつけ本番で叩いている感じ。この(練習)環境がうらやましい」と話しました。

エイサーの指導を受けた入寮者のカツミさんは「太鼓を持ったのは初めて。(エイサーを)見て『いいな』と思うけど、実際にやると難しい。意外に汗をかいた。一つひとつの動作で大汗をかく」と、奥深いエイサーの感想を語りました。

エイサーは「依存症者の回復活動」の一環として首都圏のダルクなどで積極的に導入されており、昨年9月の「第3回リカバリーパレード」では、館山ダルクの仲間たちが、新宿の街でエイサーを披露しました。潮騒の8周年フォーラムでは前年と同じように川崎、横浜、市原、千葉、藤岡ダルク、などが応援参加し、会場の鹿嶋勤労文化会館のステージでエイサーの競演を予定しています。潮騒の仲間たちは「この時期から始めたので、1つでもものにできればいい」と話し、他のダルクの仲間たち同様にエイサーを披露できるよう、自主練習に取り組んでいます。(サッキー)



薬物・アルコール・ギャンブル依存症回復施設

潮騒ジョブトレーニングセンター 8周年フォーラム

テーマ「継続…、そして未来へ」

日時 2013年11月17日(日曜日)
午前10時(開場9時30分)～午後4時30分

会場 鹿嶋勤労文化会館(茨城県鹿嶋市宮中325-1、
電話0299-83-5911)

主催 特定非営利活動法人・潮騒ジョブトレーニングセンター

後援 茨城県精神保健福祉センター、茨城県潮来保健所、水戸保護観察所、
鹿嶋地区更生保護女性会、ハローワーク常陸鹿嶋、
いばらき就職支援センター鹿行地区センター、鹿嶋市、鹿嶋市社会福祉協議会、
茨城新聞社、NHK水戸放送局、エフエムかしま他(順不同)

フォーラムプログラム

■午前～ファイザープロジェクトフォーラム～

- 09:30 開場
- 10:00 開会行事(来賓挨拶)
- 10:20 潮騒ファイザープロジェクト報告
- 10:40 講演(市川岳仁・三重ダルク施設長)
- 11:40 体験発表(しおさい農業自然隊メンバー)
- 12:00 (昼食休憩)

■午後～潮騒JTC 8周年フォーラム～

- 13:00 スライド上映(潮騒の仲間たち)
- 13:15 潮騒JTC・横浜・川崎・市原・千葉・藤岡ダルク等によるエイサー(琉球太鼓)演舞
- 13:45 ゲストスピーカー講演(進藤龍也牧師)
- 15:00 講話(秋元豊・秋元病院理事長)
- 15:15 仲間の話(潮騒JTC入寮者)
- 15:30 講演(日本ダルク・近藤恒夫氏)
- 16:15 栗原豊施設長の謝辞
- 16:30 閉会



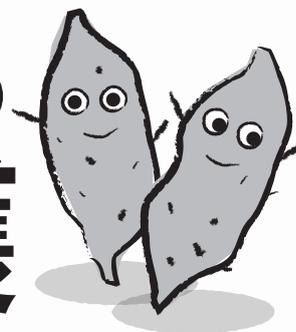
見に来て
ください。



【進藤牧師プロフィール】1970年、埼玉県川口市生まれ。高校を中退後、18歳でヤクザにスカウトされ暴力団の組員に。組長代行となるが覚醒剤が原因で降格。3度目の服役中に差し入れの聖書を読み回心。出所後洗礼を受け神学校に入学し、卒業と同時に開拓伝道を開始。現在は川口市にある「罪人の友」主イエス・キリスト教会の牧師として各地の受刑者との文通や面会を通じて福音を伝えている。著書に「人はかならず、やり直せる」(中経出版)「未来はだれでも変えられる」(学研パブリッシング)「立ち上がる力」(いのちのことば社)等。

潮騒猿田農場で 潮騒ファイザープロジェクト

さつまいも収穫



秋の収穫期本番を迎え、鹿嶋市猿田の「潮騒猿田農場」で9月12日から13日に掛けて、潮騒農業自然隊メンバーらによってサツマイモの収穫が行われました。今年は、昨年の初収穫時の経験に学んで、サツマイモを丁寧に掘り起こしてから天日で乾燥させ、根を切ってからコンテナに入れるという「売り物として出せるようにする」ことを心掛けて収穫作業に当たりました。

収穫初日の12日は「暑過ぎる」ほど日差しが強く、仲間たちは熱中症に気を付けながら収穫作業に取り組みました。シャベルなどでサツマイモを掘り起こしていったのですが、太く実っている場所と「根っこ」だけの場所との差の開きが大きく、昨年にサツマイモ収穫に当たったメンバーからは「去年のほうが取れた。全然良くない」との声が上がりました。

サツマイモ畑の約3分の1の面積で収穫作業を終えた時点の収穫量はコンテナ約10箱分で、昨年の60~70コンテナ（サツマイモ畑全体での収穫量）と比べても厳しい収穫量でした。原因は少雨などいろいろ考えられますが、仲間たちの中から「勉強勉強。毎年勉強」との声が上がり、自然を相手に学ぶことや、失敗経験を次に生かすことの大切さを学んだようです。

なお収穫したサツマイモは、洗浄や選別を経て売り物になる物は直売所などで販売し、一部は「さつまいも汁」などの形で潮騒内で自家消費する予定です。（崎）



サツマイモ収穫をする潮騒の仲間たち（鹿嶋市猿田の潮騒猿田農場）

創刊 10 周年の「ビッグイシュー」日本版 潮騒の就労支援事業を掲載

創刊 10 周年を迎えたホームレス支援誌「ビッグイシュー」日本版の第 222 号 (9 月 1 日発行) に、潮騒 JTC に関する記事が掲載されました。ファイザープログラムに取り組む団体の活動を紹介する欄に、見開き 2 ページで、潮騒が推進するファイザープロジェクトの概要がコンパクトにまとめられています。

ご覧いただければ分かりますが、紙面の中で栗原施設長の表情がとても生き生きと捉えられています。つい 10 年前まで、覚醒剤とアルコールに蝕まれて社会と刑務所を往復し、前科 7 犯・通算 20 年の監獄暮らしを経験してきた人物とは思えません。11 月 17 日に鹿嶋勤労文化会館で開く潮騒 JTC 8 周年フォーラムで、ゲストスピーカーを務めていただく元ヤクザのキリスト教牧師、進藤龍也氏が指摘するように「人生はやり直せる」の手本です。栗原施設長が希望に満ちた表情で紙面に登場しているように、依存からの回復は新しい人生の素晴らしさを物語っています。

潮騒 JTC が、他の商業雑誌ではなくビッグイシュー誌に登場したことはとても意義深いものがあります。同誌はダルクと同じ当事者活動によって発行されています。ホームレスに仕事 (販売活動) を提供し、自立支援を促すための雑誌です。定価 300 円のうち 160 円が販売員の収入になるシステムで、時間はかかっても住居を見つけ、定職に就ける仕組み作りの下支えをしています。

ビッグイシューが、この 9 月で 10 周年を迎えたことは「日本では不可能なビジネスモデル」という常識を覆すもので、閉塞した社会にインパクトを与える存在になっていることを意味します。生活保護への依存が批判される風潮だけに、自立を志向して 10 年も地道な活動を続ける努力には頭が下がります。

「ホームレスは救済の対象ではなく、ビジネスの対等なパートナー」との考え方は、潮騒ファイザープロジェクトの就労支援に通じます。社会問題の当事者になった人がその問題解決の担い手になって初めて、その社会問題は解決されるという“セルフヘルプ”理念は、これからの社会の大きなビジョンとなる予感を抱かせます。(勝)



近藤恒夫氏 インタビュー Vol.17

—このところ生活保護へのバッシングが止みませんね。批判の矛先が依存症者にも向いていますか…。

近藤 若い頃から一生懸命に働いて、やっと年金もらえる年齢になったとしても、月に6~7万円ぐらいしかもらえない人はいっぱいいる。市井でつましく暮らすそうした人たちからすれば、いくら憲法で保障された権利だからといってヤク中が毎月10数万円の生活保護を受給しているのは不公平じゃないか、という声だね。それは、ある意味で当然だろうな。「真面目に働いてきた俺たちがバカをみる国の仕組みはおかしい」というのは極めて正常な意見だし当たり前の感覚だよ。どこか割り切れない、面白くないという感情は僕にもよく分かる。

—でも、生活保護という福祉制度の支えがなかったら、依存症の人たちは今のようにダルクで回復のレールに乗れなかったですよ。ダルクにとっては生保を受給できるようになった意義はとても大きいと思うんですが…。

近藤 僕も北海道で拘置所から出てきたばかりの時にケースワーカーが尽力してくれて1年間ぐらい生保の世話になった。収入がなかったから、とても助かった。今振り返っても有難かったと思っている。

で、その後に僕が都内でダルクを始めた頃は福祉の窓口は結構、冷たかった。地元の区役所がなかなか生保を付けてくれないんだ。こっちも福祉に面倒みてもらおうという意識はあまりなかったけど。というか、あの頃はヤク中は犯罪者か社会のお荷物でしかなくて、他ならない当事者である僕ら自身が福祉の光が当たるべきだという発想を持っていなかった。だって、どこの馬の骨か分からない怪しげな団体だよ、始まったばかりのダルクは。それに依存症に対する一般の理解などはゼロの時代で、その分カトリック教会と信者の方々、一部篤志家の支援と献金にはとても支えられ、助けられた。

—確かに一般の人たちからする感覚からして、「好きでクスリ使って勝手にヤク中になって、頭や体がおかしくなったから国に面倒みてくれ」というのは

筋違いというか、何か割り切れない思いが残ります。

近藤 なんというか、この問題は当事者側からするとなかなか反論しにくい部分があるんだな。いや反論すること自体が、どことなく不遜に思え、ためらわれる。「私は薬物依存症です」と仲間内では認めることは大事だけれど、まだまだ依存症という病気に対する社会の合意形成ができてないからね。

僕は下町の工場なんかで汗水たらして地道に働いて、爪に火を点すようにして年金をきちんと納めて、定年退職して一線を退いていくような人生をまっとうしていく人たちには、ひたすら頭が下がるんだ。それでもって、安くてもきちんと年金生活を送っているだろう。そうした高齢者には理屈抜きで感心するし、うやまう対象だね。だって自分がそうできなかったからね。逸脱ばかりの人生で、周囲には苦勞と面倒ばかり掛けてきた。いわば埋め合わせのできないマイナスの人生だから、僕はそういう人たちをおそれるし、足を向けては寝られないと思っている。

—その考え方は、とても大事ですね。大げさになるけど、アディクトは生き方の価値をどこに置くか、ダルクとしての方向付けというか、収斂（しゅうれん）していく価値の在り方につながりますね。

近藤 だから、彼らが「ろくに働きもしないで、今さら依存症だからといって、それを口実に生活保護を受けるなんていい身分だな」という皮肉を込めた言い分を切り捨てる気にはならないんだよ。「さんざん世間に迷惑を掛け続け、ダルクに入寮したんで、今度は国に面倒みてくれないだろう。ダルクで働きもせずに安穩とした生活を送っているのは虫が良すぎる」という批判には謙虚に耳を傾ける度量を持たないといけないと思う。

そうじゃないと依存症の回復なんて望めない。僕たちの回復は他人への批判や非難、あるいは関心ではなく、徹底して自分への深い内省の視線を持ち続けることが生命だからね。それをねたみだ、やっかみだと無視したり、的外れだと反論する気には僕はなれない。



薬物依存と回復の権利

—分かります。分かります。そこを押さえておくかどうかは、ダルクがダルクである根拠になりますね。

近藤 ただね、これは本音として世間に向けて小声でしか言えないんだが、世の中は大なり小なり理不尽なものじゃないのかな。人間がつくる社会は日向ばかりじゃなくて日陰もある。人生もいいことばかりじゃなく困難なことも多い。山あり谷ありだ。それだけ

に綺麗ごとばかりじゃなく、時には泥を被ることで物事が前に進むことだってある。世間もプラスとマイナスの両方で成り立っている部分があるだろう。生活保護もある意味では陰の部分に光を当てる大事な福祉制度なわけで、これを感情論で片づけてしまうと、これまた別な問題が生まれてしまう。それこそ福祉の根本が崩れかねない事態も懸念される。

近藤恒夫さんが「作田明賞」を受賞

日本ダルク代表でNPO法人アパリ理事長の近藤恒夫さんが、犯罪心理学者として活躍した故・作田明氏が創設した第4回「作田明賞」(主催・作田明記念財団)の最優秀賞を受賞し、8月24日に都内で開かれた受賞式で「もう少し頑張って、日本のために出来ることをやりたい」と決意を新たにしました。近藤さんは過去に東京弁護士会人権賞や吉川英治文化賞を受賞しています。

作田明賞は2011年に亡くなった作田氏が、生涯貫いた人権保護や犯罪・非行防止と犯罪者や非行少年の更生、矯正に著しい貢献のあった個人や団体の功績を讃えるために、同年に創設しました。毎年、この時期に最優秀賞と優秀賞が表彰されており、今年で4回目。選考委員は第1回から江田五月参議院議員らが務めています。

今年は、優秀賞に長年薬物依存問題に取り組む弁護士の小森榮氏も選ばれ、表彰を受けました。受賞式では作田氏夫人で同財団理事長の作田未緒子さんから賞状と賞金が贈られました。近藤さんは謝辞で、ダルクの歩みに対する評価に感謝し、依存症の薬物犯罪者に対しては刑務所での刑罰よりも社会内処遇や治療の重要性を促しました。

近藤さんは壇上で、薬物依存症を「自己喪失の病」と訴え、「薬物再犯者を刑務所に送ることはミスマッチ、薬物事犯者は必ず再使用する。刑務所に収容することでますます自分自身を失ってしまう」と国の司法対応に異議を唱えました。その上で「初犯者を執行猶予にして放っておくのではなく、地域社会でフォローアップしていくことで再犯率は低くなる」と早い段階での現実的な対応を求めました。

また、70歳を越えた自身の年齢を振り返りながら「作田さんの願いが込められた栄誉ある賞をいただけたことを励みに、もう少し頑張って日本のために出来ることをやっていきたい」と力強く述べました。



受賞者あいさつで、感謝の言葉を述べる
日本ダルク本部の近藤恒夫代表

潮騒ファイザープロジェクト職業訓練

講師の佐藤浩さん(ストレス研究所所長)に聞く

パソコンは楽しく覚えるのが一番

昨年後半から依頼を受けて、潮騒ファイザープロジェクトの職業訓練でパソコン研修教室の講師を引き受けています。最初は暑中見舞い、残暑見舞い、パンフレットの作り方から始めて、画像の取り込み、イラストの配置、文字の打ち込みを教えました。12月頃には年賀状も作りました。「みんな年賀状を出す人がいない」とのことなので、年賀状をお互いに出し合いました。インターネットのつなぎ方、グーグル地図の見方、自分の生まれた場所の検索やストリートビューの検索も行いました。

現在、まちづくり市民センターのパソコン講座室で開講していますが、本当は潮騒ダイケア内でやれば良いと思っています。できればパソコン10台くらいでやれるのがいいですね。上級編では、施設のニーズに合わせたものを作ったらいいのかなと思います。施設にはいろいろな事務作業があるようなのでフォーマットを作りたいですね。また、先進的な活動の発表の場を作ってあげたいです。パソコン教室で3時間半は長いかもしれませんね。依存症の人たちには物事にめりこむ傾向の強い人もいますが、一般のパソコン講座からしても少し長すぎるので、入門編が2時間くらい、中級、上級編も1時間半くらいにして、あとは自分たちでやれるようにできればと思います。

私のパソコン教室のモットーは「楽しくやろう!」です。パソコンは楽しいもの、覚えれば覚えるほど楽しいものとするよう心がけました。それだけに授業は褒めながら進めてきました。ただ、一気に技能や技術は上がりません。初級なら初級なりの進め方でやらないといけません。授業で遅れている人はだんだん嫌になってきます。ですから割合フレキシブル(柔軟)に進めています。また私の方も勉強になり、もう少しパソコンに精通しないとまずいなと思いました。かなりギシギシやると逆に来なくなるかなと思いました。今は「本当に初歩」の人と、「それなりできる人」に分かれています。初歩の人は3カ月で区切ってやったほうが良さそうです。



当初は参加者も多かったのですが、課題発表を課したら減りました。最近は平均で10~15人くらいです。今後は初級と中級・上級とに分ける必要があります。また「パソコンに触れる」という自信が必要です。できればウィンドウズのパソコンが7~8台ほしい。授業では「ネットの怖さ」も教えたいです。受講者の皆さんがパソコンの技術を覚えて、「これができた」という生き生きとした顔が忘れられません。「覚えたことに喜びを感じる教え方」をしたいです。

ところで潮騒 JTC についてですが、ここも運用をひとつ間違えたら「貧困ビジネス」になってしまう恐れがあります。だからこそ経営者や周りが支えていかないと困ります。生活保護世帯は厳しい環境にあるので、ファイザー社のように支援してくれるのはすごいと思います。もっと潮騒への支援企業が増えてくれないと困ります。仕事柄、私も依存症については勉強しています。この病気は罰を与えるだけでは解決しません。人間の内面の奥深く、生き方の問題にかかわりますから。いきづらい社会を反映して様々な依存傾向の人たちが地域に潜在化し、増えています。依存は大なり小なり誰ももっていますが、体に害のない依存か、病的な依存かは線引きが難しいです。病的依存か嗜癖かは「人に迷惑がかかるかどうか」で判断できます。日本は依存症大国の米国みたいになってほしくないですね。

潮騒で3回スリップ、栗原施設長の助言に触れる

潮騒 JTCにつながったものの現実逃避で3度もスリップしてしまいました。あの時は「もうどうにでもなれ!」という自暴自棄でシャブをやり続け、やけくその感じでした。「どうせまた追い出されるのならとことんやってやれ」という開き直りと捨て鉢な気持ちが交錯して、すっかり信用を失墜した私でした。

けれども不思議なんです。以前と比べて、ちっともスッキリしない3回のスリップでした。今だに仲間たちからは「本当は4回だろう」とからかわれ、「今だって怪しい」と口癖のように“遊ばれ”ています。正直に言いますが、あくまでも3回のスリップです。まあ何ていうか、3度も4度も一緒ですが…(笑)。

通常、他のダルクでは「スリップ=施設移動」というのが当たり前なのですが、潮騒は規則を金科玉条にして、教条的には対処していません。ダルクの中でも「何度でも失敗を認める」という自助グループの精神を体現しているように私には思えます。「私は見捨てない」という栗原施設長の言葉が嘘ではないと実感しています。

でも、ヤク中はずる賢いし、手のひらを返すように平気で裏切ります。だから、潮騒の入寮者の中には「うまく利用してやれ」「仮釈を取るための方便」に潮騒を利用するケースを私も何度か見聞きしています。実際に「人がいいのも程がある」「ハードルが低すぎる」「入寮者を確保するために誰でも入れている」などの批判もあるようです。

これは潮騒に来てから学んだことですが、栗原施設長は「とことんそこで回復に努めたのか、本当に自分の問題と徹底的に向き合ったことがあるか。本当に肌に合わないと言い切れるほどに、そこで回復に専念したかを正直に自分に問うてみたか」と私に助言してくれました。

9月のバースデー



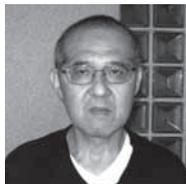
アソウ

64才になりました。



ナカ

こちら辺が勝負!!



タカ

苦節 56年…
今が一番幸せです。



トウ

無事に退寮して、
早く仕事に就きたいです。



ソラ

49年間色々あったけど、
回復を目指して
頑張りたいと思います。



オカ

9/15に新しい年代を重ねます。
アルコール依存症になって、
今まで元気に過ごせました。
命の不思議さ、尊さを思います。



スミ

こに来て誕生日を迎えてしまうよう
な長い期間居るとは思わなかった。
9/23日で60歳となり、長続きして
おります。



ベガ

長いこと施設に世話になっています。
特にコメントはありません。
あしからず。

受刑者からの手紙

入寮できないが ミーティング等には参加したい

お手紙ありがとうございます。内容のほうを一通り確認させて頂きました。犯罪というより病であるという言葉になかば救われた気持ちがありました。

私としましては裁判所で公言した通り、もう薬物を使わないと決めました。ですが、非常に止めづらいうのも事実と自覚しております。はっきり申し上げますが、仕事がありますので、入寮するつもりはございません。

でも、スクーリングやミーティングに定期的に参加したいとは考えております。

突然お手紙を頂き正直驚きましたが、薬物に関するご自身の体験とご理解ありがとうございます。自分は初めて捕まった事で再使用に対しては、絶対に使わないという決意に満ちております。

お心遣い感謝します。

(東京都 T・K)

漢字検定 2 級に挑戦し 毎日必死に勉強

私は現在、通信教育で漢字検定 2 級に挑戦し毎日必死に勉強に頑張っております。社会でこれ位真面目に頑張れば何度も同じ過ちを繰り返すことはなかったかもしれません。この歳になって初めてこんな気持ちになりました。これもすべて栗原様とのご縁があったればこそと、心から感謝致しておる次第であります。漢字検定など社会において、そう役に立つものではないかも知れませんが、私は今のこの自分の気持ち大切にのではないかと考えております。ですから何としても合格をしようと思っております。」

(北海道 S・H)

出所後は潮騒の 楽しいイベントに参加したい

(8月に実施した)潮騒納涼祭 いいですね、夏といえばバーベキューですよ! 最高!私もこういうイベントいいなと思います。皆さん本当に楽しそうですね。栗原さんの方も、農業プロジェクト進んで頑張っている姿が写っていました。栗原さんの前向きな姿を見て私も頑張らないと思いました。私も出所後、このようなイベントに参加したい気持ちがあります、やはり皆さんが楽しんでいる姿はいいですよ。私も出所したら残りの人生楽しんで生きたいです。

そして、今私はNPOの勉強しています。少しNPOの仕事も大変ですね、何が大変かと言うと、会社を作るまで、1年間の実績がいるみたいですね。そうしないと、国から支援が下りないのですから大変な仕事です。あと一人一人の申請も大変だと思ひ、勉強しています。でも、私はNPOと云う仕事はいいと思っています。今、日本にとって注目だと思っています。私のほうも少しずつ勉強するので栗原さんもプロジェクトの方、成功させてください。

話は変わりますが、刑務所でもいろいろイベントがあります。6月にソフトボール大会がありました。私の工場は木工の7工場です。3年ぶりに優勝しました。決勝では8対0でした。私もサード4番で出ました。ホームランは2本しか打てませんでした。次は運動会です。今、みんなと練習しています。やっぱり一番は応援合戦です。みんな気合入っていますよ! 運動会が終われば、また、ソフトボール大会です。二連覇を目指します。

私の話になってすみません。とりあえず私が出所したら、私の大事な仲間と栗原さんの施設のイベントに顔を出せたらいいなと思っています。その時はよろしく願ひします。本当に毎月の資料有り難う御座います。私もこの資料で勉強させられます。本当に有り難う御座います。

まだ外は少し暑いと思いますが、栗原さんも体に気を付けて、生活して下さい。また私のほうからも手紙を書かせて頂きます。プロジェクト、頑張ってください!

(栃木県 M・S)

どうすれば薬の魔の手から 逃れられるのか

現在私は刑務所に収監されています。覚醒剤使用による六回目の服役です。今までも社会生活を真面目に送ろうと、自分なりの努力はして来たつもりでしたが気がつけば結果はいつも同じ事の繰り返しでした。どうすればこの薬の魔の手から逃れることができるのでしょうか？ 受刑生活を送りながら自分なりに日々考えています。もはや自分一人では、離脱するのは困難に思います。甘い考えかも知れませんが誰かの助けを借りたい、いや、どんな事をしてでもこれを最後にしたい。その思いが日々強くなっています。
(群馬県 K・R)

己の過ちを改める機会を 神様に頂いた

時の流れとは本当に早いものです。あれから早3年目になろうとしています。失った日々を思うとき、本当にシャブなんてくだらない物だと心底思っています。己の至らなさがなによりもの原因であることを痛感しています。このように己の過ちを改める機会を神様に頂いたと思えば、今回の懲役は実に実のあるもので感謝すべきことと思っています。いっそヤクザもやめられたらいいのになあ、なんて悩んでもいますが、そう簡単なお話ではないので…と、毎日そんな悩みの尽きない日々をお陰様で元気にお過ごしさせていただきます。
(北海道 M・H)

堅気の道と 薬物の無の人生を歩みたい

無くしたものの多い中、幸い年老いた母と内妻は、たまに TEL で私を思い出し、店を経営している実弟、甥っ子、知人達も私へのラストチャンスを願ってくれています。この私の大切な人々との絆も、多分この務めの後の、私の「真の薬物を断つ」で、これを守らなければ総てを失ってしまう事でしょう。私も 30 年以上、任侠道で生きてしまって、その中で薬物依存と成り振り返れば、情けの無い事ばかりです。堅気の道と薬物の無の人生を、私自身の努力と栗原先生やスタッフの方々様の協力で、先々、細やかでも幸せを感じる、我が人生を歩むたいものです。
(北海道 M・K)

同囚から潮騒 JTC の事を 聞いて手紙を

現在、潮騒 JTC ではどのような態勢で運営をおこなっているのですか？ 私は覚せい剤で捕まっていますが、同囚から潮騒 JTC の事を聞いて手紙を書きました。ダルクのプログラム等も前刑で受けたのですが塙の外に出たら忘れてしまい、同じ事を繰り返し、また捕まったのです。歳も 37 歳で、出所するころには 39 歳です。今後覚せい剤と付き合いを断りたいので、良かったら参考にさせてもらえないでしょうか？ パンフレット等があったら送ってください。
(神奈川県 K・O)

覚醒剤を取り巻く環境に流されて生きてきた

私は只、只覚醒剤を取り巻く環境に流されて生きてきたようです。それだけに自分の意志が薄弱で取り巻く環境の外へ投げ出されると、どうしてよいのやら解らなくなりただ不安になり、また不安が募る苦しさから開放されたいが為に何も考えようとしなくなる。只無気力な日々を過ごしていたようです。施設長との御縁より、潮

騒を知り行く場のなかった私に此の身体を預ける場処を戴き、覚醒剤を止める努力をする事で回復の道と云うものの道程の中に新しい生き方が見つかるかも解らない、そんな夢まで与えて戴いたのです。
(北海道 T・K)

しおさい 俳壇

全国のダルクでは、地域や施設の特徴を生かした独自の活動が盛んです。最近ではエイサー（琉球太鼓）や和太鼓が人気ですが、メンバーが固定しにくだけに苦労も多いようです。潮騒JTCでも本号で取り上げているように、11月のフォーラムに向けて有志がエイサーの練習に励んでいます。

これと並行して、潮騒JTC独自の取り組みとして定着しているのが俳句作りです。毎月句会を開き、お題に沿って入寮者が力作を持ち寄ります。各作品には選者の桐本石見先生が選評を加え、特選句と秀逸句を選びます。入寮者の作品は、翌月の潮騒通信に掲載しています。十七文字が織り成す味わい深いに、どうか読者の皆さんも作品をお寄せください。潮騒通信に掲載いたします。

8月のお題

お盆

今月の特選句

盆が来て故郷を思い手を合わす コバ

盆は盂蘭盆とも云い仏教の行事の他にも会社なども休みになり帰省などして家族親族の縁を深める。しかし諸々の事情で帰れない人は故郷を偲びその空へ手を合わせ亡父母などの冥福を祈る。簡素ながら切々とした句です。

盆踊り再会果たす顔と顔 カー

盆踊りは元々は精霊の慰めの宗教的なものであったが今は観光を含めて盛大なものもあるが、田舎で帰省の客を集めて寺や校庭で行われる盆踊りでは何年ぶりの友人や同級生に出会う、懐かしさと故郷を偲ぶ実感の句です。

そのほかの句

盆休みいつしか里に帰りたき コジ

盆過ぎて風の波立つ芒原 ポチ

仏壇に亡き父母思ふ盆灯籠 サユリ

家々の盆提燈の家紋かな シマ

風鈴の音の涼しき夜更けかな イルカ

亡き母の魂に逢う夜や迎え盆 レイコ

今月の秀逸句

盆に見る火垂るの墓や茜雲 カツミ

「火垂るの墓」は野坂昭如の短編小説で昭和四二年に発表された本人の戦争体験記的なもので、火垂るは蛍の儂い命と空襲での火災の火の意も込めたもの。八月十五日終戦日は盆とも重なり日本人には諸々の思いがあるが、アニメ化された火垂るの墓を見ながら戦争の思い出を顧んでいるのかも。しみじみした句です。

親戚が昔の話し盆参り オノ

盆参りは、墓や寺と親戚への盆参りも含まれるが、ことに親戚などに行くと、祖父や父母の昔の話になる、爺さんの大酒や戦争のこと、遠い縁者のことなど話題は尽きない。故里は遠くにありて思うものの格言を思う句です。

夏祭り浴衣の君は異国人 ヒーサン

以前は田舎町では外国人は滅多に見れなかったが、今ではどこでも見かける、盆踊りや祭りにも浴衣や着物で見に来ている。この詠の君は彼女かも、時代の移りを思う明るい句です。

盆墓の父母よ我見て何思ふ 芝

原句は季語が無いので少し変えましたが、これで墓の亡父母へ語りかける作者の景も見え切実な思いの句になります。どの親も我が子の幸せの姿を見たいと思う、墓参りにも平凡ながらも人として正道な姿で詣りたいものです。

新盆の香華重たき思ひかな カート

新盆は新仏が初めて迎える盆で大事な法要の一つ、家庭によっては仏壇や墓を新に設けることもある。まだ一年未満の月日であれば仏の生前への思いもあり、香華にも格別な心に重々しく感じる、しみじみとした句です。

霧の夜のおとぎの国となりしかな ユタカ

同じ気象現象ながら、春は霞、秋は霧などと云うのが日本人の詩的感覚で俳諧もその一端と云えます。霧の町や村の夕方に点る燈は春とは別におとぎの国を彷彿する。以前草津のの湯を訪ねたがそんな日暮れでもあった、メルヘンの句です。

受刑者の句

大空を洗ひ夕立去りにけり

章三郎

夕立は一過性の集中豪雨で雷をとめない、午後が多いのでこの名があるが、被害が無ければ夏の夕べに涼を呼ぶし、作物にも潤いを与える。大空も大地も洗う様に去る夕立を簡素に詠んでの大景の句で清々しい。

秋立つや生絹のごとき今朝の雲

章三郎

今年の夏は暑く長いが例年だと盆過ぎには風にも雲にも初秋を感じる、「生絹」すずしは、生糸の織物で薄い着物、それに似た雲が初秋の空に広がる、絹雲とも云う。立秋の実感の句です。

藁を焼く刈田の煙霞ヶ浦 ユタカ

「稲藁を焼く」は季語に無いので少し原句を変えましたが、これで霞ヶ浦近辺の広い刈田で藁を焼く景が見えます。近年では農家の藁細工も少なくなり脱穀の後に藁を焼く、処々に藁焼きの煙が見えるのも水郷の懐かしい景です。

笛太鼓秋の祭りの浅草寺 ユタカ

漢音様で名高い浅草寺は推古天皇の御世に漁師の網に漢音様が掛かりそれを本尊秘仏として今に至る。秋の祭りには、鶯舞い、東京時代祭、などあるが、三社祭、羽子板市、など年中賑う。笛太鼓に賑わいを思う句。

9月の行事予定

- 8日 秋元病院メッセージ (21日も)
- 9日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 13日 潮騒プロジェクト会議
- 15日 大阪ダルク 20周年記念フォーラム
- 21日 ファイザーP継続応募プレゼンテーション
NA 北関東エリアギャザリング (~22日)
北関東薬物関連問題研究会
- 22日 潮騒家族会 9月定例会
- 23日 第3回リカバリーバレード「回復の祭典」
- 26日 潮騒9月俳句会、潮騒9月映画会
- 27日 潮騒ファイザープロジェクトWG会議
- 28日 山梨ダルクフォーラム
- 29日 潮騒アディクションセミナー
AA 春日部セミナー
- 30日 潮騒入寮者9月誕生会

今年も豊作のコメづくり、稲刈りに励むリーダーのヒコさんです→

10月の行事予定

- 2日 第2回全国ダルク次世代スタッフ研修会(~3日)
- 4日 ファイザーP就労支援地域ネットワーク会議
- 11日 沖縄ダルク 19周年感謝フォーラム
- 26日 第23回鹿嶋まつり (~27日)

今月のベストアングル



編集後記

2020年夏季五輪の開催都市が東京に決まりました。早くもインフラ整備の拡充や観光客の増加など幅広い経済効果が期待されています。閉塞感漂うこの国には明るい話題ですが、大震災の復興や原発事故への対応も最優先で取り組まなければなりません。うまくバランスを取りながら、今後7年間に万全な準備が求められます。多様化するスポーツ界ですが、人間の精神文化を支える大事な祭典です。依存症者にとってもスポーツに汗を流す爽快感は無視できない力があります。薬物やアルコール、ギャンブル等に変わる「良い」依存対象になるよう、潮騒でもソフトボールやウオーキングだけでなく、他のスポーツや健康づくりに力を入れたいと考えています。なお、今月号から紙面レイアウトを一新しました。ご意見をお寄せください。(市)

献金を頂いた方 (9月15日現在)

- ・(株) 三明 鈴木正明様 (潮来市)

その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

献品を頂いた方 (9月15日現在)

- ・橋爪 八重子様
- ・岩田 けい子様
- ・佐藤 寛様
- ・堀内 誠様
- ・中川 孝二様

今月も多くの方から献品・献金をいただきました。
心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することが
できておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しく願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

■ 編集・発行：

特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上鉾木 1113-39

E-mail k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>